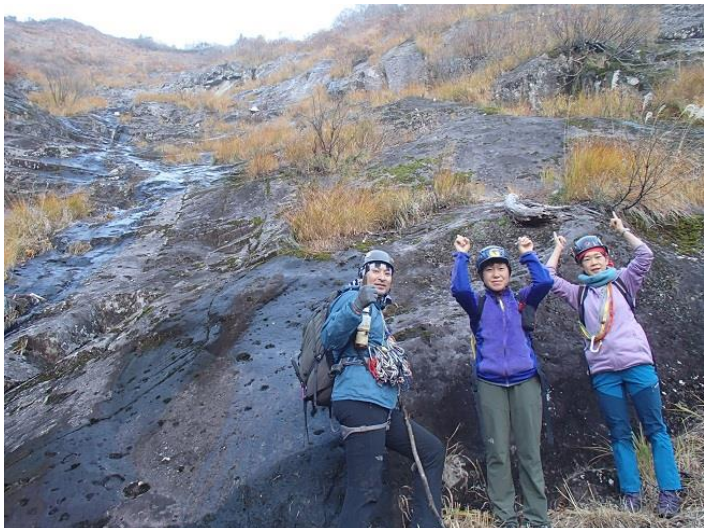


上越・飯士山 負欠スラブ

2021年11月14日

メンバー：T野・T崎・A原・S石k



飯士山には、初級向きのマルチピッチルートがあるということは、もうかなり前から知っていた。「負欠スラブ」という西面一帯に開ける広大なスラブがそれである。ずっと「フッカケスラブ」だと思っていたが現地で見るとフリガナがふってあって、どうやら「オйкаケスラブ」というのが正しいらしい。ここも過去に何回計画しただろうか？ 9月に登った蔵王の振子沢同様、2～3回は計画書を書いたような気がする。そういう相性の悪いルートは誰でも一つや二つはあると思うが、それだけに、ずっと心に止めていたルートでもあった。多くの場合、悪天候が計画を

阻んだわけだが、このルートは一応、登攀ルートなので、メンバーの人数や力量、装備等も問われるルートであり、そういう制約もあって、大勢でワイワイ行くのが好きな私は、なかなか機会に恵まれず実行できないでいた。今回、天候とメンバーに恵まれてようやく行くことができた。初めてのバリルートは行ってみるまでハラハラドキドキ、おまけに最近少し流行っている表現だが「グルグル・・・」。「青天を衝け」のお千代がよく使っていた。そう、つまり「不安もあるが楽しみだ!!」ということである。では報告です。

■写真上 濡れて黒光りした負欠スラブの1ピッチ目。

■写真中 さあー、慎重に行こうぜ!!

■写真下 乾いた場所を拾いながら登って行く。

登山口は国道17号の湯沢から石打に向かうトンネルを越えてすぐの「五十嵐入口」を右折し、道標に導かれて登って行くと飯士山登山口のある廃墟横の駐車スペースがある。(状況次第で、途中に鎖のゲートが締まっている場合もあるが、カギはかかっておらず通行は可能だ。)

ここに車を停めて準備を整え6:55に出発する。道路を200m程戻って登山道に入る。ここで「負欠」は「オйкаケ」であることが判明した。杉の植林を10分ほど歩くと、左「負欠岩ルート」と右「尾根ルート」が分岐、我々は「尾根ルート」に入る。この辺りから急登になるが、ブナの美林が広がり紅葉も少し残っていて気持ちの良いところだ。早速、A原さんがナメコを見つけて満面の



笑顔。「帰りに採取するので・・・」と言って、他人に見つけれないように辺りに葉っぱをかけてナメコを隠す動作が、昔飼っていた犬が餌を土の中に隠す仕草に似ていて「ああーこれが本能というやつかあー。」と妙に納得する。「炭焼窯跡」の道標を過ぎて3つ目の沢を登ると負欠スラブの取付きに着く。(後でわかったが、3つ目の沢の50m程先に「負欠スラブ⇒」という立派な道標があるので、そこから入った方がわかりやすい。)

負欠スラブの1ピッチ目はスラブが濡れて黒光りして、いかにも嫌らしそうだ。記録を読むと、ロープなしで取付くパーティーも多いのだがちょっと信じられない。我々は迷わずロープを使用してT崎さんトップで慎重に取付く。ただ、後から考えてみると、初っ端のこのピッチがダントツで嫌らしかった。といっても3級は越えないのだが、濡れて黒光りしたスラブは、我々にとっては十分に脅威であり、先行きに不安を感じ、結構なプレッシャーがかかった。

この後はT野・T崎と順番にリードしたが難しいところは全くなく、支点もブッシュで採れるのでストレスのない登攀が楽しめた。

(2ピッチ目以降は慎重に登ればロープはなくても大丈夫そうな気がするが、高度感はかなりであるので、そういうストレスに弱い人(自分?)は引き続きロープを使用することをお奨めします。)

■写真上 上部に行くにつれスラブは快適になっていく。

■写真中 グイグイ登って行ける！！

■写真下 負欠岩が同じ高さに見える。右のリッジに登れるらしい。

負欠スラブは、1ピッチ目以外はロケーションも良く、易しく(2級以下)、ブッシュで支点も取れるので安心感もあり、初級者がマルチピッチの流れを学ぶには最適なルートだと思う。リスもあるのでハーケン打ちの練習やルーファイの練習もでき、ラインも何通り

も取れるので、数パーティーで違うラインを登って楽しむこともできる。さらに、スラブの中程には「負欠岩」という4級位の岩峰があり、ここは登攀の練習に最適なグレードなので、合わせて1日たっぷりと練習すれば、バリエーションルートを目指す初級者はマルチピッチルートの流れとクライミングの練習が効率よくできて、きっと有意義な1日になるであろう。

もちろん、練習の場としてではなく、ここはちゃんとした山なので、ロープを必要とするちょっとスリルのある山登りを楽しむにも最適だ。負欠岩ルート(一般ルート)を登れば、ロープや三つ道具なしで本



格的なハイグレードハイキングも楽しめる。そう考えると、様々な楽しみ方ができて実に良い山である。ただ、雨天時など、壁が濡れている時はマジに危険なので特別な理由（あえて濡れた壁を登る練習をする場合など）がない限り突っ込まない方が良くだろう。

さて、我々はずっとロープを使用して登ったが、そうすると8~10ピッチ位あって結構時間がかかった。我々の後から登って来た新潟のパーティー（新潟稜友会）は、ロープを使用していなかったのであつという間に我々を抜き去って行った。彼らのようにロープを使用しないで登れるパーティーなら、きっと我々の半分以下の時間で登ることができるだろう。ロープなしでグイグイ行くか、我々のようにロープを使用し、時間はかかっても安全第一で行くかは行く人の判断力に委ねるしかない。

上部に登るにつれ、どうやら、我々が登っているルートは中央ルートのようにということがわかってきた。記録の多くは負欠岩の基部に登って「負欠岩ルート」（一般ルート）に合流しているが、我々の登ったラインは負欠岩よりかなり上部まで登ってしまったので、そのまま直上せず適当なところで「負欠岩ルート」に合流すべく左寄りにルートを取り、2ピッチほどで「負欠岩ルート」に合流した。

- 写真上 飯士山山頂にて。
- 写真中 山頂から谷川連峰を望む。
- 写真下 A原さんが隠しておいたナメコ。

後はこのルートを辿ることにするが、このルート、一応、固定ロープもあり、一般ルートぼくなっているが、もしなければ、今まで登っていた負欠スラブと全く同等のハイグレードルート！！イヤー、ここを一般ルートとして開放するとは、新潟県人は凄い！！スラブにぶら下がる1本の固定口

ープ、高度感も半端ないし、登りはともかく、ここを降りるのは普通の人には相当怖いと思う。

まあ、我々は登りなので、そんなルートをグイグイと快適に登っていくとやがて西峰。ここで下降する予定の「尾根ルート」が分岐する。ピークに興味がないというT崎さんは、ここでのんびりしているというので、他の3人でピークを目指す。10分もかからずにピーク着。上越や越後の山が一望で来てロケーションは抜群だ。先程追い抜いて行った新潟のパーティーとしばし談笑。守門の奥に飯豊連峰らしき白い



峰々が望めるが、越後三山や巻機と比べ雪の量が俄然多い。同じくらいの標高なのにこの違いはいったい何なんだ？。あと一ヶ月もすればこの辺りも雪で覆われスキーシーズンが始まる。非常に楽しみだ。

さて、下山に使用した「尾根ルート」も全く油断のならない危険なルートであった。ちょうど負欠スラブの右岸が「負欠岩ルート」、左岸が「尾根ルート」という感じで、傾斜の強さはほぼ負欠スラブと同じなので「エッ、ここ降りるの？」と思うような急な尾根が続く。部分的に固定ロープもあるが、両側はスッパリ切



れ落ちていてうっかり転倒でもすればただでは済まなそうだ。「負欠岩ルート」ほど露出感がないのがせめてもの慰めか……。緊張感を切らすことなく慎重に降りていき、スラブの基部まで降りるとようやく安全地帯。登ったスラブを見上げながらゆっくりと一休み、満足感に浸る。さらに、往路で通ったブナの美林で心癒され、A原さんは葉っぱで隠しておいたナメコを思惑通りゲット。メリハリのある楽しい1日であった。

下山後、車窓から見る負欠スラブは「凄いとこ登ったんだね！！」と思えるほど立派に見え、メンバー全員でスラブを褒め称え合う。ご褒美は、越後湯沢の「駒子の湯」で二日分の汗を流し、食事は昨日とは違って安心の「人参亭」のとんかつ！！ロースでも脂っぽく肉も柔らかく旨い！！昨日のラーメンの失敗を完全に帳消しにして、すべて満足して帰京した。

■写真上 紅葉も残っていた！！

■写真下 気持ちの良いブナの美林。

■コースタイム

五十嵐登山口 (6:55) ~ (7:00) 登山道 ~ (7:10) 負欠岩ルート・尾根ルート分岐 ~ (7:35) 負欠スラブ基部 ~ (11:35) 負欠岩ルート登山道 ~ (12:10) 西峰 (12:15) ~ (12:20) 飯士山 (12:30) ~ (13:50) 五十嵐登山口